

令和6年度 東京都立田園調布高等学校 学校経営報告

6年度の経営目標	実施内容等
1 学校経営・組織体制	体育祭、文化祭、合唱祭の三大学校行事を含め、各行事において、全教職員で考え、ほぼ全身体制で協力して実施することができた。また、これまでにない体験活動を多く取り入れたことによる成果も得られた。 ① 計画達成に向けて、教職員間で共通理解を図りながら実施することができた。 ② 研究紀要について、新たな企画を実施できたことも含め、4年連続で発行した。 ③ 服務の厳正について、教職員研修を行うなどして、事故0を達成した。
2 学習指導	進学指導研究校（第三期）、理数研究校、英語教育研究推進校の指定を受け、学習指導力、授業力の向上に組織的・計画的に取り組むと共に、全ての学年で学習指導要領の改訂から3年目となり、観点別評価を取り入れた授業評価を行うことができた。 ①課題テストを全て教科・科目で共通問題とし、解答の分析をすることができた。 ②模試分析会の実施を通して、分野ごと小問ごとの正答率の状況を踏まえ、学習指導の成果検証を行った。結果が良い部分、改善が必要な部分それぞれの理由を探ることで、生徒への教科指導の改善を図れるようになってきている。 ③夏季休業中の講習や土曜講習、大学入学共通テスト直前講習を計画的に実施し、大学入試を意識し学力向上を図った。 ④人間と社会では、外部組織「フォーラム21」や「16歳の仕事塾」等の協力をいただき、次学年に向けた探究学習の充実に努めることができた。 ⑤総合的な探究の時間では、2学期末に2学年全員が発表を行い、3学期末に代表者による発表を行った。 ⑥進学指導研究校の指定や公開授業の実施により、教科指導力の向上を図った。 ⑦英語教育推進校の指定を活かし、オンライン英会話の充実や海外派遣研修等の参加を通じて、国際社会で生きる人材の育成を進めることができた。 ⑧理数研究校として、昨年に引き続きT o k y oサイエンスフェアでの発表、電気通信大学との高大連携プログラムや外部機関が企画するイベントにも参加するなど、本物に触れる機会を設定し、生徒は取り組んだ。
3 生活指導	年間を通して組織的に生活指導に取り組むことができた。 ①教育相談委員会及びいじめ防止委員会を毎月開催し生徒の状況の把握を、スクールカウンセラーを交えて実施した。また、年間3回のいじめ調査により、生徒の状況把握を的確に行うことができた。 ②専門医派遣事業の取組として、精神科医による心の健康教室、スクールカウンセラーによる講演会等を開催し、心身の健康の保持増進に努めた。 ③1年生を対象としたSNSの適切な利用及び薬物乱用防止講座を、所轄警察署と連携し実施した。 ④年間3回の避難訓練に加え、学校防災拠点訓練（地域と連携した防災訓練及び避難所設営・運営訓練）を実施し、1年生全員が参加し実施することができた。嶺町地区学校防災活動拠点本部と連携した、「地域協働による防災教育の推進」について東京都教育委員会より職員表彰（団体表彰）が授与された。 ⑤年間を通じた遅刻指導を継続し生活習慣の確立ができた。 ⑥教職員を対象とした校内研修を年間3回実施し、人権尊重の精神及びコンプライアンスの徹底を図るとともに、体罰・暴言等の防止に向けた意識啓発に努めた。
4 進路指導	「田高進路プロジェクト」に基づき、進路指導部、学年、教科が協力し、進路指導を計画的に実施することができた。 ①第三期・進学指導研究校への訪問指導では、各教科の分析結果や模試全体の概況

	について情報共有することにより、模試分析会について評価をいただいた。 ②進路指導部を中心にアドバンスクラスの指導法を取りまとめた。 ③1、2年生対象に大学出張講義を企画し、14大学の協力を得て実施することができた。 ④大学入試説明会において、昨年より多く9大学に来校いただいた。今年度は、1年生の参加も認めたことにより、参加者も昨年と比較し、大幅に増加した。 ⑤模試分析会の実施について進路指導部が各学年をけん引し、次年度以降の継続的な実施を決定することができた。 ⑥夏季集中型学力向上講習(1・2年生)、3学年の夏期講習等を進路指導部がとりまとめ、各教科と連携して効果的な学習指導を行うことができた。 ⑦保護者会等での進路情報の提供を行うことができた。よりきめ細かい情報提供の手法については今後の課題である。
5 特別活動、部活動	ほぼ通常どおりに活動を行うことができた。 ①部活動についてはガイドラインに従い活動を行うことができた。宿泊を伴う活動は5団体実施することができた。 ②体育祭、文化祭、合唱祭は、予定どおり実施することができた。 ③ビブリオバトルを図書委員会の生徒が進行役として12月に実施し、読書活動を推進するとともに、表現力やプレゼンテーション能力の向上に努めた。 ④生徒会役員が、地域行事にボランティアとして参加したり、文化祭での収益金を石川県輪島市門前町へ寄付するとともに実際に訪問し、現地で交流するなど、社会貢献につながる活動ができた。
6 募集・広報活動	推薦入試、前期入試について共に例年より倍率が減少した。一方、都立高校全体の応募者が減少する中、入学希望者を確保できた。 ①ホームページの年間更新回数は328回(R5:220回)を超え、情報発信ができた。 ②近隣の中学校に加え、進学指導塾や外部団体における合同説明会にも参加し、本校のPR活動を行った。さらに、後期募集直前の2月にも進学指導塾を訪問したことにより、後期入学選抜の倍率が昨年より上昇した。 ③中学校への学校説明会や出前授業にも参加し、中学生へのPRに務めた。
令和5年度の主な学校説明会等の来校者数	
(1)第1回学校見学会(7.23)……1028名/R5:1180名 (2)第2回学校見学会(7.30)…750名/R5:1160名 (3)第3回学校見学会(8.10)……1386名/R5:1164名 (4)城南地区合同説明会(10.6)…64名/R5:50名 (5)第1回学校説明会(10.26)……320名/R5:626名 (6)都立高校等合同説明会(10.27)…234名/R5:135名 (7)第2回学校説明会(11.16)……384名/R5:505名 (8)第3回学校説明会(1.11)……96名/R5:138名 (9)第4回学校説明会(3.4)……16名/R5:19名	
令和6年度の数値目標	
① 大学現役合格者数	① 大学現役合格者数
・国公立大 10名以上	・国公立大 6名(R5:4名)
・難関私大(早慶上理) 10名以上	・難関私大(早慶上理) 7名(R5:9名)
・私大(GMARCH) 60名以上	・私大(GMARCH) 63名(R5:63名)
② 生徒による授業評価における学習指導「指導方法、指導内容の工夫」について、肯定的評価 90%以上	② 肯定的評価 85%(R5:78%)
③ 生徒の授業以外の学習時間の目安を1年生2時間、2年生3時間、3年生4時間として、各学年の達成目標 30%以上	③ 達成率 (1年生:15.1%, 2年生:2.5%, 3年生:25.5%)
① 12月時点での1・2年生の部活動加入率 80%	③ 12月時点での1・2年生の部活動加入率 69.5%(R5:72.5%)
② 入学者選抜応募倍率を、	⑤ 入学者選抜応募倍率
・推薦 3.2倍以上	・推薦 1.96倍(R5:1.50倍)

・分割前期 とする。 ⑥ 東京都体力・運動能力調査の体力合計点の平均値を、東京都平均以上とする。	2.0 倍以上	・分割前期 ・分割後期 ① 東京都体力・運動能力調査の体力合計点の平均値 ・男子 ・女子	1.41 倍 (R4:1.87 倍) 2.75 倍 (R5:1.25 倍) 51.1 (東京都平均 61.9) 50.3 (東京都平均 53.3)
翌年度以降の課題と改善策			
○ 全日制普通科高校としての役割をしっかりと果たし、学習活動、学校行事、部活動、委員会活動、本物に触れる活動等、教育活動を充実させ、生徒の学校満足度を向上する努力を行う。 ○ 教職員のライフワークバランスを考え、土曜授業実施による負荷の軽減（振休日を取れる時間割の作成や工夫した行事の時間構成）とともに、1 曜日を定時退庁とする等、長時間勤務を減らすよう改善する。 ○ 観点別評価の実施、生徒が I C T 機器を活用する授業の実施。全ての教員が授業力向上につながる取組みを引き続き行う。 ○ 生徒に寄り添った生徒指導、専門機関と連携した生徒のメンタルヘルスケアの充実を通して、生命尊重の教育を実践する。 ○ 18 歳成人を見据えた、規律ある学校生活の実践を行う。 ○ 進学指導研究校の経験を生かし、他校の授業見学や、職員研修、模試分析からの学習指導の力量の向上を図る。学年担任だけでなく、全ての教科の教員がエビデンスに基づいた進路指導ができるように組織的な取り組みを行う。 ○ 学校行事、部活動、委員会活動を生徒主体で実施する。生徒自らが田園調布高校の学校行事、部活動、委員会活動を作り上げるという気持ちになるような指導を教職員から生徒へ促していく。 ○ 学校案内や W e b ページにおける内容の充実、及び P R 活動をできる限り行い、応募倍率を向上させる。また、人数確保のための戦略も今後検討する。 ○ 教職員が田園調布高校を愛し、生徒一人一人の声に真摯に耳を傾け、心のこもった温かい指導を充実させることが必要である。生徒が教員の指示を待つのではなく自分で考えることができるように指導し、さらに、教員は上司からの指示待ちになるのではなく、自らが学校経営に参画する提案を教職員から出していく。 ○ 令和 7 年度も、年度末に一年間の取組をまとめた紀要を作成し、学校としての活動の記録を残す。また、管理職は生徒・教職員の意見を聞きながら、真摯に学校運営を行う。			